



ロンドン日本人は日本の「学習指導要領」に準じた教育課程で教育が展開されています。そもそも「学習指導要領」って、何ですか？

- ❖ ロンドン日本人学校の教育課程は、文部科学省が示した「学習指導要領」に準じて教育課程が編成されています。でも、そもそも「学習指導要領」って何なのでしょう？
 - ❖ 今回はこのことを明らかにするとともに、今後の学校だよりの見通しをお示ししたいと考えています。
 - ❖ 全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を定めています。これを「学習指導要領」といいます。つまり、全国における基準が実は定められており、それが「学習指導要領」なのです。
 - ❖ 一例をあげましょう。小学校の「国語(第5学年及び第6学年)」では、「(文章等を)書くこと」において『引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること』ができるようにする」ということが示されています。
 - ❖ だから、学習指導要領に基づいた「国語」の教科書では、小学校5・6年生の教科書で図表やグラフなどを用いて「書く」課題が設定されているのです。また、毎年小6、中3で実施される「全国学力・学習状況調査」では、そのような「書く」力をつける授業例を設問として設定しています。何もこの調査は都道府県政令市や市町村間の点数を競うものとして作成されたのではないのです。
- ❖ 4月号でお示しをしたポジティブ心理学では、Well-being(ウェルビーイング)として「自分自身の可能性による理想の実現」を軸にした思考であることをご紹介しました。
 - ❖ 学習指導要領では「生きる力」として「知・徳・体」の充実による「幸せの追求」が示されています。そのことをこれから以下の順序で解説をしたいと考えています。
 - 7月・9月号：
「観点別学習状況」について
通知表である3つの観点(「知・技」「思・判・表」「主体」)について解説をさせていただきます。
 - 10月・11月号：
「言語技術」を考える
学習指導要領では「言語活動」が、全ての教科・領域で取り込まれています。また言語を用いて相手に伝えるだけでなく自分の思考を深めることが重要視されています。言葉を使う本質にせまる「言語技術」について解説をさせていただきます。
 - 11月・12月号：
「動機づけ」を科学する
「やる気スイッチ」って、どこにあるのでしょうか？またその本質は何なのでしょう？最新の科学的知見を活用して、その本質に迫ってみます。
 - 1月・2月号：
「学習方略」について
「やる気はあるのに、やり方がわからない」というやり方のことを専門的には「学習方略」といいます。その基礎をここではご紹介をさせていただきます。
 - 3月号：
「主体的選択能力」を考える
1年の締めくくりとして4月号に立ち戻ります。そして「幸せ」を主体的に選択する能力について論じていきたいと思えます。
 - ❖ 馴染みのない題材ばかりかもしれませんが、子どもたちに必要な「学力観」をレポートしていきたいと考えています。

